



↑こちらのコードから色鮮やかなカラー版をご覧ください。(3月1日以降)



令和4年4月10日が市制施行記念日です

★富士見市★
市制施行50周年

水谷公民館だより

編集 水谷公民館だより編集委員会
発行 富士見市立水谷公民館 富士見市水谷1-13-6
TEL049(251)1129・FAX049(255)9886・✉fkm-mi@coral.ocn.ne.jp

激動の水谷50年 ⑫ 水谷小中学校の変遷

これまで「激動の水谷50年」と題して、様々な視点に立ってこの地域の状況を取り上げてきましたが、最終章となる今回は、この地域に係る教育環境の移り変わりについて取り上げたいと思います。

弥生(三月)は、花の蕾が開花し、心も爽やかに夢が膨らむ季節です。また、卒業式など私たちの思い出に残る季節でもあります。

そこで、今回は市制施行50年よりさらに遡り、三村(水谷・鶴瀬・南畑)合併当時の様子を垣間見るとにしたいと思えます。

注 三村合併(昭和31年)に人間郡鶴瀬村・南畑村と北足立郡水谷村の合併により、富士見村が発足。

萩元編集委員

水谷小学校のあれこれ

水谷小学校は、明治5年小学校発布の趣旨に従い、明治6年11月23日に開校された市内で最も歴史と伝統のある学校の一つです。三村当時の学校の敷地は、砂利道の公道と学校敷地の間は土手で仕切られていて、境界のフェンスもなく、今では考えることのできない開放感のある環境でした。道路側には、並行して桜の木が植えられ、入学式の頃には歓迎の花を咲かせていました。現在は、道路の拡張や歩道整備、



昭和39年3月の水谷小学校



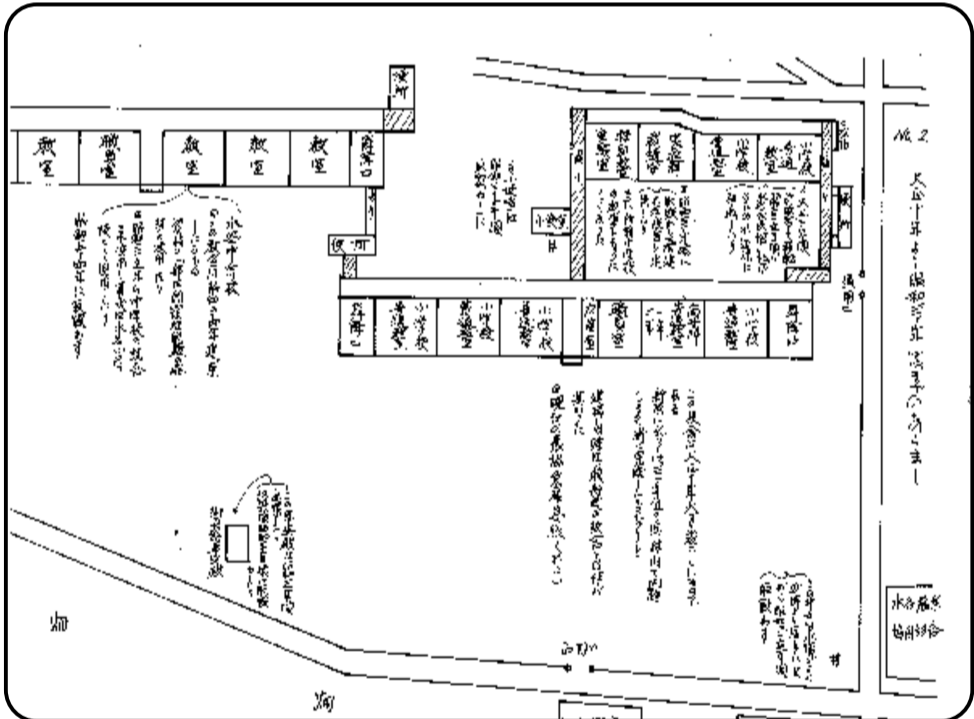
昭和33年入学時の風景

老木化などにより、少し寂しくなったような気がします。合併当時、南側にかなり年季の入った木造平屋建ての校舎、その前にはプラタナスの木、北側には二階建ての校舎があり、かなり年季の入った建物でした。学年1、2クラス編成の児童がのびのびと健やかに学んでいました。先人たちが残した歴史や伝統は、現在に引き継がれています。そして、令和5年には創立150年という節目の年を迎えます。

校庭共有の時代

三村合併当時の学校敷

大正10年より昭和30年頃まで校庭共有した時代の学校敷地における水谷小学校と水谷中学校のあらし(「水谷のあゆみ」より)



地(現在の水谷小学校敷地)は、東側に小学校、西側に昭和23年4月に設置された中学校がありました。特に、小学校と中学校を隔てる校庭の境はなく、自由気ままに行き来をすることができた状況にありました。また、校庭が広くないため、直線百メートルのトラックを作るには、両方の校庭を使用する必要があったのです。良かれ悪しかれこのことは年齢を超えて児童生徒の優しさや思いやりの心を育む機会に役立つものと思えます。

地域住民が一喜一憂した運動会

この地域は、
一区(水谷第一町会)、
二区(現水谷第二町会)、
三区(現水谷第三町会)、
四区(現針ヶ谷一丁目町会及び針ヶ谷二丁目町会)

に区分されてきました。その大きな行事が、四地区対抗による運動会でした。各地区の住人が一体となり、優勝という目標に向かって戦っている様子が、今、走馬灯のように甦ります。家族ぐるみの参加、熱狂的な応援を背に全力を尽くす選手達、それは楽しみな年間行事の一つでもありました。まさに地区体育祭は、当時の地域住民にとって一大イベントでした。

富士見台中学校創設と波乱の幕開け

水谷小学校に隣接して設置されていた水谷中学校は、昭和35年4月、鶴瀬中学校との統合により、富士見台中学校となりました。

しかし、第一期卒業生である方にお話を聞きますと、鶴瀬中学校の生

徒と一緒の授業は受けることなく、富士見台中学校第一期卒業生として巣立ったという事です。

昭和36年4月からは、新たに南畑中学校が加わり、富士見台中学校は三地区統合の中学校となりました。

しかしながら、富士見台中学校の建設予定地であった敷地は、文化財埋蔵地であったため、遺跡発掘調査の必要性から建設が大幅に遅れ、完成は昭和36年9月にずれ込みました。そこで、昭和36年度の一学期は一年生が

旧鶴瀬中学校の二教室、文化会館に二教室、鶴瀬小学校の一教室を借用、二年生は旧水谷中学校の教室と水谷小学校の二教室を借用、三年生は旧南畑中学校という分散形式での授業のスタートとなりました。このように、当時の生徒にとっては大変厳しい条件下に置かれたながらも、思い出深い青春のページになったと思えます。

昭和50年代に入るとみずほ台土地区画整理事業の針ヶ谷土地区画整理事業の実施・竣工やみずほ台駅開設により、市街化区域の宅地開発が急速に進みました。児童・生徒の大幅な増加とともに学校建設の必要性が高まり、昭和52年4月にみずほ台小学校、昭和59年4月には針ヶ谷小学校が開校しました。その後、児童・生徒は徐々に減少し、逆に余剰教室の問題がクロー

区画整理に伴う都市化への急速な変貌

急速な変貌

昭和50年代に入るとみずほ台土地区画整理事業の針ヶ谷土地区画整理事業の実施・竣工やみずほ台駅開設により、市街化区域の宅地開発が急速に進みました。児童・生徒の大幅な増加とともに学校建設の必要性が高まり、昭和52年4月にみずほ台小学校、昭和59年4月には針ヶ谷小学校が開校しました。その後、児童・生徒は徐々に減少し、逆に余剰教室の問題がクロー

ズアップされたところで、後に、余剰教室は特別教室への活用、コンピューター教室の設置などに充てられました。

一方、昭和35年4月富士見台中学校へ統合された水谷中学校は廃止され、残された校舎は引き続き水谷小学校の教室などに利用されました。昭和46年4月に本郷中学校が開校するまでは、地域に中学校のない状況が続きました。その後、西みずほ台の区画整理地内にみずほ台団地が完成したことを受けて、昭和54年4月に西中学校、さらに昭和58年4月に新たな水谷中学校が開校しました。そして、それぞれの学校が特色ある学校づくりを目指して努力し、現在に至っています。

令和に入り、水谷小学校の児童数は、わずか3年間で、179名増えて831名となり、市内で最大の小学校となっています。それは水子地域の宅地開発が進み、子育て世代が多く住み始めたからです。

今、学校は明るく元気な子どもたちの声で満ちあふれています。

将来、子どもたちが大きくなって、小学生のころを振り返る時、公民館だよりの紙面にどんなことを書いてくれるか楽しみで

